

# 関西国際空港の強化に向けた要望書

令和元年9月

関西国際空港全体構想促進協議会

関西国際空港は、昨年度、台風第21号の被害を受けながらも、迅速な復旧・復興により、その影響を最小限に抑制し、発着回数は19万回、国際線旅客数は2,289万人と過去最高を更新しました。引き続き、西日本における国際拠点空港として、我が国の航空需要を支える重要な役割を果たしています。

一方、人口減少と少子高齢化が急速に進展する中、我が国が今後も持続的な成長を遂げていくためには、発展著しいアジアをはじめとする諸外国との間で、人やモノの流れを更に活性化し、取り込んでいくことが重要です。

首都圏では、成田・羽田両空港の更なる機能強化が進められていますが、関西圏においても、関西3空港の主軸をなす関西国際空港のポテンシャルを最大限発揮させることが、地域の発展を促し、ひいては、我が国全体の成長にとって、大きな原動力になると考えられます。

折しも、我が国では、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」に続き、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、更には「2025年日本国際博覧会」など、内外の交流を活発化させる国際行事が目白押しです。

これらの好機を逃すことなく、最大限に活かすには、まず、関西国際空港の抜本的な防災対策を早期に確立し、拡大を続ける訪日外国人の受入環境を整えることが喫緊の課題です。

また、発着回数が環境アセスメントの想定23万回に迫りつつある現状を踏まえ、2030年を目標とする訪日外国人6,000万人時代に如何に対応すべきか、早急に将来需要を見定めた上で、関西国際空港の将来像をどう描くのか、これらは、関西のみならず、我が国全体にとっても、重要な課題と言えます。

現在、関西国際空港においては、国の支援の下、急ピッチで防災対策が進められる一方、ターミナル1リノベーションの検討など、関西エアポート株式会社による民間の経営感覚を活かした空港づくりが進められています。また、今年5月に開催された関西3空港懇談会では、2025年頃の中期的な視点で、「国をはじめ関係機関との連携・協力を得て、将来の需要に応じた発着容量の拡張可能性に関する検討を行う」旨、とりまとめられたところです。

こうした状況を踏まえ、地元としては、関西エアポート株式会社の経営判断を尊重し、その取組と連携・協力していくことを基本に、防災対策のほか、インバウンド促進や観光・物産情報の発信など需要創出に寄与してまいります。また、空港と地域の共存共栄の下、世界水準の国際拠点空港として、一層の機能の強化・拡充を支えることで、我が国初のコンセッション空港が更なる発展を遂げるよう、最大限努力してまいります。

国におかれましては、関西国際空港が、関西そして我が国の成長を担うアジアのゲートウェイ空港として、より一層発展できるよう、適切な関与の下、必要な施策や措置を講じられることを下記のとおり要望いたします。

## 記

- 1 昨年9月の台風第21号による教訓を踏まえ、抜本的な防災機能強化対策が迅速かつ着実に実施されるよう、引き続き、空港運営事業者等に対する支援に努められたい。また、新たに定められた周辺海域における荒天時の航行制限について、確実な運用を図られたい。加えて、関西3空港懇談会のとりまとめにある通り、発災時における空港間の支援・補完のあり方について、全国的な見地から、必要な対策を検討、推進されたい。

- 2 インバウンド需要の拡大が続く中、待ち時間の短縮、円滑かつ快適な旅客動線の確保など、受入環境の改善は依然重要である。今後も、2020年訪日外国人4,000万人の目標達成に向け、外国人旅客の増加が見込まれることから、入国審査官等のさらなる増員を図るとともに、顔認証ゲートや税関電子申告ゲート等、最先端技術の早期導入・利用拡充を推進するなど、人的・物的両面から必要な措置を講じられたい。
- 3 関西国際空港アクセスの利便性や速達性の向上を図るため、なにわ筋線の早期整備に向けた必要な財源を措置されたい。また、淀川左岸線2期・延伸部及び大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線等の高速道路ミッシングリンクの解消についても着実に推進されたい。
- 4 観光立国の実現に向け、訪日需要が旺盛な国々に対して、観光ビザの適切な緩和を推進されたい。また、訪日外国人に関し、観光、宿泊、二次交通などの受入環境の改善を促進するとともに、災害時においても、安全が確保され、安心して旅行できるよう必要な対策を推進されたい。
- 5 関西国際空港が、関西ひいては我が国の成長のけん引役となるよう、安定した経営基盤の維持・確保に努めるとともに、開港以来、築かれてきた空港と国、地元との良好な関係を引き続き維持されたい。また、ワールドマスターズゲームズ2021関西や2025年日本国際博覧会の開催、さらには2030年の訪日外国人6,000万人時代を見据え、世界水準の国際拠点空港として、そのポテンシャルを十分に発揮し、機能の強化・拡充が図られるよう、国・空港運営事業者・地元の連携の下、適切な指導と必要な支援に努められたい。
- 6 特に、関西国際空港の将来像や関西3空港懇談会でとりまとめられた容量拡張の可能性の検討については、環境への十分な配慮など、空港と地域の共存共栄を基本に、円滑かつ着実に進むよう、適切な関与と必要な支援をお願いしたい。

令和元年9月

関西国際空港全体構想促進協議会

会 長	(公社)関西経済連合会	会長	松	本	正	義
副会長	大 阪 府	知 事	吉	村	洋	文
〃	兵 庫 県	知 事	井	戸	敏	三
〃	和 歌 山 県	知 事	仁	坂	吉	伸
〃	大 阪 市	長	松	井	一	郎
〃	堺 市	長	永	藤	英	機
〃	神 戸 市	長	久	元	喜	造
〃	大阪商工会議所	会 頭	尾	崎		裕